

## 私のギリシア語学習法

古浦 敏生

ずいぶん昔のことで、日時も場所も忘れてしまったが、上智大学教授、W・グロータース神父の講演を聴いたことがある。神父は、何ヶ国語も母国語同様に操ることのできる不思議な能力の持ち主として有名である。如何にしてその能力は獲得されたのか？神父は開口一番、“親を選びなさい！”と言われた。つまり、神父は、両親・祖父母がそれぞれ別々の言語を母国語とする、外国語学習に最適の環境で育てられたのであった。

知る人ぞ知る語学習得の達人は、洋書輸入販売業者の故渡辺和雄氏である。氏はほとんど独学で、イタリア語・フランス語・スペイン語・ポルトガル語の通訳・ガイド試験に合格、実用英語検定試験一級取得、さらに、ロシア語検定試験上級に合格された。いくつかの外国語を平行して同時に学ぶほうが、効果が上がるという人もいる。しかし、渡辺氏によれば、“ロマンス諸語など同系語を学ぶにあたって注意すべきことは、必ずベースになる一つの外国語の実力をかなりの程度まで高めておくことである。そして、一外国語ずつ学習していくことが大切で、例えば、イタリア語とスペイン語を平行して学ぶことは避けた方が良い”とされている。

また、人には食物の好き嫌いがあるのと同様、外国語を学ぶ際にも好き嫌いがあるように思われる。だから、一つの外国語が苦手だったからといってあきらめないうで、複数の外国語にアタックして、自分にふさわしい外国語を見つけるようにすればよい。

以上は、外国語学習に関する一般論である。

さて、私が学んだギリシア語は主として古典ギリシア語であった。昭和36年4月に広島大学文学部言語学専攻に入学し、2年次にギリシア語文法の授業に出席した。テキストは田中美知太郎・松平千秋共著『ギリシア語入門』岩波全書であった。リドル・アンド・スコットの希英小辞典を購入し、練習問題を

毎週こなした。“継続は力なり”というが、毎回キチンと予習をして出席するということが何よりも肝心である。そのためには、しっかりしたモチベーションが前提になる。つまり、新約聖書を原語であるギリシア語で読んでみたいとか、ホメーロスのイーリアスを原文で読みたいとか…。

よき師に巡り会うことも大切である。私の場合、故関本至先生（言語学、ギリシア語学専攻、本学会前会長）がそれであった。大学院に進み、その後、言語学研究室の助手としてお側に置いていただいた関係上、学生・院生の頃はもちろん、助手の期間中もオブザーバーとして先生の懇切丁寧なご授業に参加させていただいた。お陰で、かなりのギリシア語テキストを読破することができた。プラトン「ソクラテスの弁明」、クセノポン「アナバシス」、ソポクレス「アンティゴネー」、ヘシオドス「神統記」、新約聖書「マタイ伝」、ホメーロス「イーリアス&オデュッセイア」各1巻などがそれである。

私の学習（主として、予習）の仕方であるが、原文をノートに1行おきに書き写し、それぞれの語の下には、その語の意味とその語の元になる語と当該の語形との関係（例えば、ἐπειρώντο なら、πειράω「試みる」の直説法未完了過去中動相3人称複数）を略号を使って書き入れていくという方法である。そして、その語が形容詞であれば、被修飾語としての名詞に矢印を付ける。その語が関係代名詞であれば、その先行詞に矢印を付け、どこまでがその関係文なのか、その印も加える。要するに、そのノートさえあれば、いつでも即座にあらゆる情報が引き出せるようにしておくのである。古典語の場合はこういったノートを作成するという回り道が、結局は習得の近道のように思えるのである。

なお、古典語のテキストを読み込んでいく際、邦訳はもちろん、英語訳（ロエーブ叢書）やフランス語訳（ビュデ版）のほかに、いろいろな言語で書かれた注釈書も取り揃えることが大切である。さらに、イタリアで出版されている不規則動詞逆引辞典（P. De Vecchi & F. Sacchi : *Verbi Greci*, 1970, Milano）も大いに役立った。

また、私がこのような努力を続けていくことができたのは、側に優秀なライバル（竹島俊之氏、浮田三郎氏）が居てくれたおかげだと思ふ。さらに、ギリシア語の授業を担当することになってからは、これまた優秀な教え子が居てくれたことも幸運であった。のちにギリシア語を専攻してギリシア留学を果たす橋孝司氏、佐藤りえこ氏、たちがそれである。

最後に、ギリシア語の面白さは、森安達也氏も述べておられるように、ホメーロスから古典期、コイネーの時代（新約聖書など）を経て、ビザンツ時代か

ら現代にいたる長い歴史を持ち、ほとんど断絶がないことであろう。

#### 参考文献

森安達也「外国語と私…ギリシャ語」（月刊『言語』1988年、8月号、p. 46）

渡辺和雄「私の第七外国語」（月刊『言語』1983年、5月号、p. 85）